

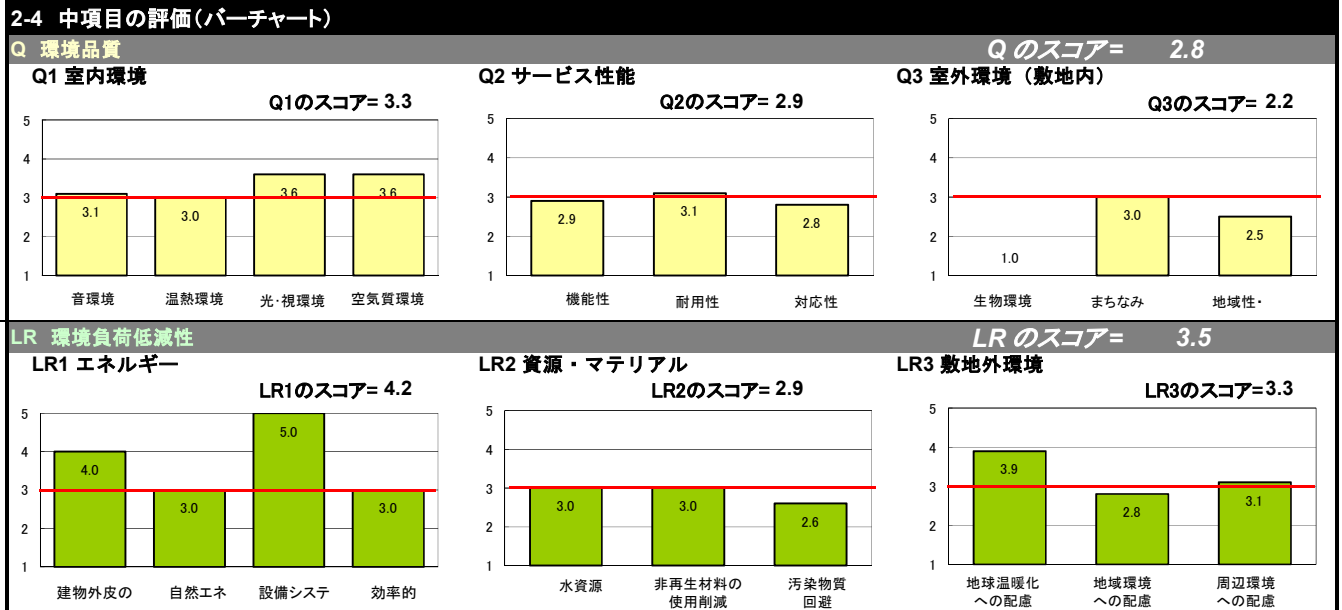
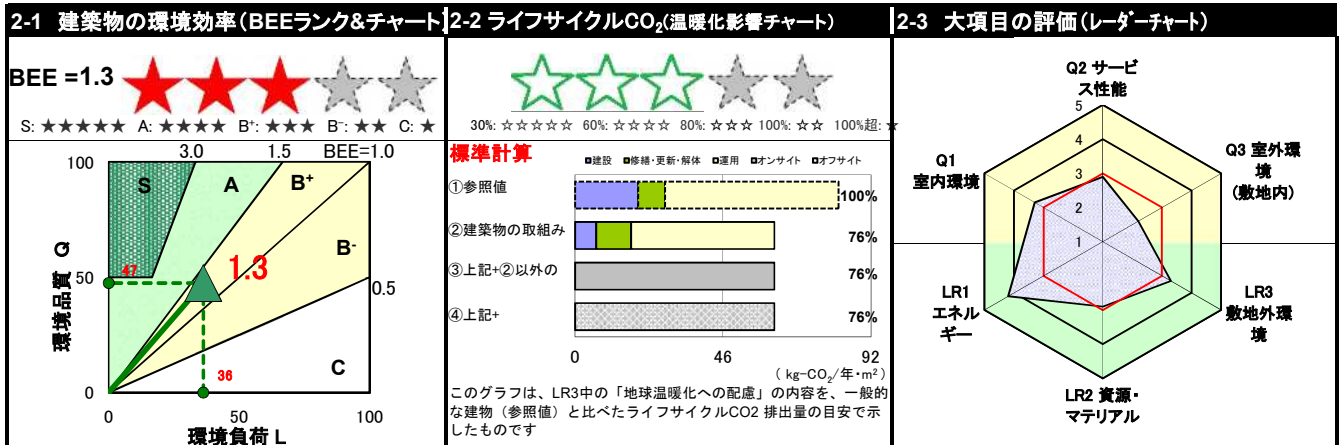
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23007

建築物名称	(仮称)川崎市中原区上丸子八幡町計画新築工事
建築主	株式会社長谷工コーポレーション 代表取締役社長 池上 一夫
建築物の所在地	川崎市中原区上丸子八幡町581番1
設計者氏名、建築士事務所名	渡邊 基弘 株式会社長谷工コーポレーション 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,802.02㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上15階
工事完了予定年月	令和7年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観	23007
建物名称	(仮称)川崎市中原区上丸子八幡町計画 新築工事			階数	地上15F
建設地	川崎市中原区上丸子八幡町581番1			構造	RC造
用途地域	近隣商業地域			平均居住人員	404 人
地域区分	6地域			年間使用時間	6,060 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅			評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定			評価の実施日	2023年5月23日
敷地面積	1,406 m ²			作成者	大内 七聖
建築面積	510 m ²			確認日	2023年5月31日
延床面積	4,802 m ²			確認者	遠藤 匡利

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

(仮称)川崎市中原区上丸子八幡町計画 新築工事

23007

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針に適合している 川崎市景観計画に沿った色彩とした	2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.0
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	省エネルギー等級4取得 バルコニー及び、カーテンレールの設置	4.6/6.9	3.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針に適合している	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー等級4取得	4.2/5.0	4.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている	2.7/4.7	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.3
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	空調・給排水配管の主要3種のうち2種以上がC以上	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。LGS工法を使用。	2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水貯留槽にて、雨水流出抑制を行う計画としている	0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針に適合している	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	省エネルギー等級4取得	4.2/5.0	4.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得	4.2/5.0	4.2

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40		-	3.3
1 音環境						3.0	0.15	3.1	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					—	3.0	0.50	3.3	0.50	
1 開口部遮音性能					—	3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					界壁の壁厚を180mm以上とし、木下地二重壁によりDr-50を確保	3.0	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	1.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					—	3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御					—	3.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温		W			—	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能					—	3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					—	3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	3.7	1.00	3.6
3.1 昼光利用					—	4.2	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率					エントランス昼光率10.5%を確保、B2タイプ昼光率4.04%を確保	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					—	2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			開口部まわりには庇があり、住居部分の窓(キッチンを除く)にはカーテンレールを設置している	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					—	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策					—	4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					ほぼ全体的にF☆☆☆☆を使用している	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					—	3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					—	3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.9
1 機能性						2.8	0.40	3.0	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					—	3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観					—	3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	3.0	-	-	-	
3 内装計画					—	3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理					—	2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		劣化対策等級3を取得	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		—	2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		給水:B、汚染排水:B、雑排水:B、Eは不採用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり									-	-	2.6	0.50	
	1 階高のゆとり								-	-	3.0	0.60		
	2 空間の形状・自由さ								-	-	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり								-	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性								-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								-	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)									-	0.30	-	-	2.2
	1 生物環境の保全と創出				G	W		H	-	1.0	0.30	-	-	1.0
	2 まちなみ・景観への配慮				G				-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮									2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	川崎市緑化指針に適合した地表面対策面積の確保	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー										-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					W		H	断熱等性能等級4取得	4.0	0.20	-	-	4.0	
2 自然エネルギー利用					W		H	-	3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化					W		H	[BEI][BEIm]=0.8	5.0	0.50	-	-	5.0	
4 効率的運用									3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価									-	-	-	-		
4.1 モニタリング					W		H	-	3.0	-	-	-		
4.2 運用管理体制					W		H	-	3.0	-	-	-		
集合住宅の評価									3.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング					W		H	-	3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制					W		H	-	3.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル										-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護					W	R			3.0	0.20	-	-	3.0	
1.1 節水								-	3.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								-	3.0	0.60	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無								-	3.0	1.00	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無								-	3.0	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減									3.0	0.60	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減					W	R		-	3.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					W	R		-	3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W	R		-	3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W	R		-	1.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					W	R		-	3.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W	R		躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用している	5.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避									2.6	0.20	-	-	2.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用								壁紙用接着剤は有害物質を含まないものを使用している	4.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避									2.0	0.70	-	-		
1 消火剤					W			-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)					W			-	2.0	1.00	-	-		
3 冷媒					W			-	-	-	-	-		
LR3 敷地外環境										-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮					W			ライフサイクルCO2排出率が一定値以下	3.9	0.33	-	-	3.9	
2 地域環境への配慮									2.8	0.33	-	-	2.8	
2.1 大気汚染防止								-	3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H		3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制									2.5	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減						R		-	3.0	0.25	-	-		
2 汚水処理負荷抑制						R		-	3.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制						R		-	1.0	0.25	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制						R		-	3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮									3.1	0.33	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0	0.40	-	-		
1 騒音								-	3.0	1.00	-	-		
2 振動								-	-	-	-	-		
3 悪臭								-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制									3.0	0.40	-	-		
1 風害の抑制								-	3.0	0.70	-	-		
2 砂塵の抑制								-	3.0	-	-	-		
3 日照障害の抑制								-	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制									3.7	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								-	3.0	0.30	-	-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0			○	○	-		○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		○	○	-	-	○	-	-		-				-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0		-	○	○	○	-	-	-		-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	-	○	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	○	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0		-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-						
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		-	1.0	1.0	2.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	-	3.0	3.0	-	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	-		-	-	-	-	-	対象外							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC0.5 窓の日射熱取得率(η)-

U値(W/m2K) 窓システム 4.0

屋根 2.0

外壁 2.0

床 2.0

住戸部分システムU値 -

外皮UA値 -

ηAC -

ηAH -

昼光率 1.5%

自然換気有効開口比 3.3%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 30.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.87 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 58.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 1800 N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 93% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 60%

水平投影面積率 48%

地表面対策面積率 76%

舗装面積率 44%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.97 断熱性能等級 等級4 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡

採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%

通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 - 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E -

エコマーク商品 -

自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 5.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 1430

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 8

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 99% 棟間隔指標Rw 0.57

地表面対策面積率 145.0%

屋根面対策面積率

#DIV/0!

外壁面対策面積率

0.0%

見付面積Sb 1.954㎡ 1 越風向と直交する最大敷地幅Ws

40.604 m

基準高さHb

48.13 m

緑地 118㎡

水面 ㎡

保水性対策面

㎡

高反射対策面

㎡

再帰性反射対策面

㎡